

高等学校ランドデザイン会議第1回西北・中南地区部会概要

日時：平成18年9月19日（火）

13：30～15：30

場所：青森県総合社会教育センター

<出席者>

野呂部会長 竹林副部会長 尾崎委員 木村委員 工藤委員 櫻庭委員 高橋委員
藤田委員

野呂部会長

早速ですが、第1回目の地区部会を始めたいと思います。最初ですので、まず自己紹介から始めたいと思います。部会長をおおせつかりました野呂です。今年の春に定年退職しまして教育とはお別れかなと思っていましたが、またこのような役目をおおせつかりました。私は高等学校ランドデザイン会議の検討会議にも属していますので、地区部会の委員の意見を報告する事で、今後の県立高校の望ましい在り方について皆さんの意見を反映させたいと思っています。

【各委員から自己紹介。】

野呂部会長

どうもありがとうございました。なお、大平委員と成田委員が欠席です。

次に、設置要綱により地区部会の副部会長は部会長の指名によるとなっておりますので、私から指名したいと思います。五所川原第一中学校の竹林委員にお願いしたいと思っています。先生は、教育事務所の指導主事と中学校の校長先生を経験され、最も県立高校の在り方に関心が強いのではと思います。中学校の代表という事でよろしく願います。

【全員から賛同を得た。】

野呂部会長

それでは意見交換に入りますが、時間の制約が15時10分までですので十分な審議はできないかとは思いますが進めたいと思います。最初ですし、膨大な資料を配付されて今日初めて見るという人が多いかと思いますが、良く分からないまま進んでも少し問題があります。事務局の方もいますので、今までの説明の中で分からない所について御質問をなさっても結構です。できれば指名でなく、それぞれの立場から御自由に高校教

育に対する御意見を伺いたいと思います。

我々に与えられた諮問の内容については、諮問書の中で3つの項目がありましたのでそれに基づいて行うのが本来だと思います。ただ、各専門委員会の方が先日2回目を開催しましたが、まだまとまっていなく検討段階ですので、そこを踏まえながら青森県立高校の今後の在り方という事で御自由な意見をお伺いしたいと思います。何かありませんか。

専門委員会の御意見で、1学年あたりの適正な学級数等について意見が出されていますが、その辺を踏まえて何かありませんか。適正な学級数、あるいは市部と町村部の望ましい学級数はどうなのかについて意見が出されていますが。

竹林副部長

中学校でも小規模の学校では、免許外の先生が入ってやらざるを得ませんし、部活動も旨くいかないです。地域によっては2校一緒にという事もあるのですが、なかなか距離的に難しいです。高校での適切な授業、適切な部活動と考えると、ここに書かれてるように最低6学級は必要かなと私は考えています。ただ、深浦の方にもいた事があるのですが、親の経済的な面から考えるとどこかに高校を集中させるのは難しいのかなと思います。子どもに対する適正な教育と親の負担という事を考えると、非常に難しい問題で結論を出す事ができなくて悩んでいました。

野呂副部長

ありがとうございました。その辺で何かありませんか。

各専門委員でも、高校にはある程度の規模が必要なのではないかという、今の竹林副部長が言ったような内容がそのままあるようです。

A委員

見当違いな話になるかもしれませんが、私の娘が3人とも同じ中学校に行きましたが、暴力沙汰に非常に悩まされました。人数が非常に多く1学級40数人くらいで、その時の先生からは30人少しであれば非常に理想的にできるという話を聞かされました。今は生徒が少なくなってるので、そういう意味ではチャンスなのでしょう。学校そのものがまばらなのは問題でしょうが。

市内でも名前が広がるくらい有名な子がいて大変でした。どれくらいが適正かと言っても、適正な教育とはどの辺を指すのでしょうか。非行がない事が適正なのか、良い進学校には行かないが総じて真面目で部活をやっているのが適正なのか。クラス数が多いとどうしても先生が非行を押さえるのが非常に難しくなります。娘が殴られた時に先生に呼ばれて学校へ行って、半分諦めながらどうにもならないという話を聞いてきました。3~4学級の学校と違って、押さえる事が難しくなるのだと聞いてました。では何学級が理想的なのかとなると分かりにくいのですが、目が届いて誰が悪いと分かるくらいの学

級数が良いのではないのでしょうか。1～2人そういう子どもがいたら、真面目な子どもも次第にそちらに毒される傾向があるというお話を聞きます。目が届いて生徒を押さえられる範囲という事も、学級数の基準として検討してみてもどうでしょうか。成績が良い悪いは、学校規模が大きくなればそのうちの1～2番となればそれなりの成績を取るのでしょうか、それは別問題だと思います。

野呂部会長

ありがとうございました。高校の場合の適切なクラス数は、4～8学級というのが今までの基準でした。

事務局

先程のお話は中学の定数という事でお話しされたと思うのですが、高校であれば受験がありますので全部が入ってくるという事はありません。また、先程竹林副部会長がおっしゃった免許外ですが、そういう事がないようにするためには4～8学級が適切ではないかという話です。何故4学級かと言うと、理科と社会は高校に行くと物理、化学、生物、地学、地理、世界史、日本史、公民と分かれて来ますので、それぞれの教科を専門性を持って教えるためにはある程度の教員数が必要です。県費で無尽蔵に教員が配置できる訳ではないですし、中学校と高校では適切な学級数の意味合いは違うのかなと理解しています。

野呂部会長

具体的に言うと、1学年あたり2学級の学校と4学級の学校では、どれくらいの教員数か分かりますか。かなり違うのでしょうか。

事務局

1学年あたり2学級ですと、普通枠で1～2名、理科で2人、社会で1人、そういう形の教員しか置けなくなりますので、学校で大学受験まで目指して教科指導するのはかなり難しくなるのが現状です。4学級になると、ある程度ギリギリのラインでなんとかかなるのではというのがこれまでの基本的な考えです。

野呂部会長

私が教頭になった時、2学級の学校で習熟度授業をやりたいと考えたが、教員数の関係でできないのです。無理を言って理科の先生にどうか数学をお願いして、というふうに工夫してどうかやりましたが、生徒に選択をたくさんさせたくてもカリキュラム上できないのです。そういう基準で考えると、ある程度の学級数は必要です。

A委員

変な話になりますが、青森県が国から予算をとってくる時に何が悪いかと言うと、いわゆる超優秀で国の予算をやりとりしている大蔵省等の予算をつける所に青森県出身の人が非常に少ないのです。同じ条件だと、どうしても自分の出身となるのですから。そういう事を考えると、青森県は優秀な人材を国に輩出し、他の地域と対等に予算をもらえるようになれば、青森県はもっと楽になる感じもするのです。

B 委員

専門部会は、今まで2回開催していますが、まだ具体的な所には行っていません。地区部会では、3地区それぞれにおける問題点や課題についてこれから話して行くべきでしょう。専門部会でほとんど決めてしまった結果が我々の方に示されて、我々が良いとか悪いとか話し合っても、結局地区部会の認知を取るためのものであればそれは問題でしょう。

これから何回か地区部会が話し合っていくにしても、例えば西北と中南では風土が違い歴史も違います。それぞれの地域の方が、どういう意見を持っているかという事だと思います。もう1つは、県の教育委員会の考え方があるでしょう。当然行政ですから、将来の展望を持っているはずで、高等学校と義務教育は違う考え方ですし、先生方も小中高では違うでしょう。PTAはPTAの考え方があるでしょうし、我々のような民間人や地域が求める人間像があると思います。ですから、この場で求められるのは学級編制あるいは学校の在り方と言っていますが、極端な話、生徒が少ない所は平成の大合併のように学校を潰していいのかという議論ができるかどうかです。県の教育委員会としては、多分潰さない程度にやって欲しいのではないのでしょうか。それでは、我々が県の財政を考えた時には学校を潰す、地域の事を考えた時には学校は潰せない、というジレンマがあります。そういう所は、地域の実態を話し合っただけの方がより結論に近くなるのではと思います。

C 委員

専門の知識はありませんが、今年の春に息子が高校に入学しまして、その際の地域の親としての意見です。弘前市内には普通高校が結構あり、また私立もあります。弘前高校、弘前南高校、弘前中央高校はある程度レベルが高い普通高校ですが、結局その学校に行くには各中学校である程度の成績を取っていなければ行けません。今は就職難ですし、子ども達はどうしても普通高校に入りたいのですが、そうすると中間層の生徒達は弘前実業か弘前工業のレベルには入れませんが普通科がないのです。そこには入らないとなると東奥義塾高校や聖愛高校、もしくは黒石高校や尾上総合高校を志望します。黒石高校と尾上高校は県立ですが、電車賃をかけて行くと私立に入学するのとほぼ同じ金額になってしまいます。そこで経済的な事を考えると、例えば冬に電車ではなく送って行く等を考えると弘前市内の東奥義塾高校や聖愛高校という考えに至るのです。しかし、経済的に許される家は良いのですが、どうしても経済的に許されなければ弘前

実業高校や弘前工業高校へ行きなさいと言うのです。子どもは専門校に入りたくないのです。スポーツ科や電気科へは行きたくないのです。でも、高校を卒業しないと就職できないという頭があるので、本当に専門高校に入りたいという生徒もいますが、入りたくなくても経済的な理由や、高校に行くためだけの理由で入る子がいます。結局は長続きせず辞めてしまう子もいます。何年も前から弘前に住んでいますが、その辺をもう少し考えて、実業高校や工業高校にも普通科があってくれたら、子どもも親も良いのかなという単純な意見です。

野呂部会長

専門高校の中に普通科という事ですか。

C 委員

レベル的なものを見て作ってくれた方が良いです。親はそういう事を望んでいます。

事務局

学級数による教員の目安ですが、本県の場合は2学級規模であると13人、4学級で28人、6学級になると42人くらいです。また、2学級ですと1学級35人がほとんどですので、生徒が80人と70人ではその分でも若干は変わります。先程予算の話もありましたが、県単独で教員を配置するのはかなり厳しい状況です。

A 委員

県の高校の予算は年間どれくらいなのでしょう。去年に比べていくら上下してるのでしょうか。

事務局

予算そのものは係ではありませんが、人件費や管理費を含んででしょうか。

A 委員

管理費も人件費も含めてです。

事務局

次回の会議までに分かればお知らせしたいと思います。

A 委員

例えば、その中で県としてはいくら位で押さえないという要望があるのでしょうか。それとも、必要な分はしょうがないから、そこは除いてという意向でやってるのでしょうか。

事務局

我々は常に対財政当局というスタンスで考えるのですが、県としてはかかるお金は減らしたいと考えていると思いますが、必要な分を減らしてまでがつがつとやれという事ではないと思っています。予算効率という部分はあると思いますが、教員28人が多過ぎるので予算を減らすため25人にしなさい、という事は言われておりませんし、国で決めている法律に基づいた教員の目安については触れられていません。管理費一般については県の枠がかかってますので、徐々に減らされていますが、それについてもこの会議をやる事で圧縮しなさいと言われている訳ではありませんので、そこは御心配されなくても結構かと思えます。

D委員

予算につきましてはこの資料の中に書いてありますので、後で参照すると良いと思います。

地区部会という事ですが、第1専門委員会や第2専門委員会の意見を見ると、市部、町村部という言葉が出てくるのですが、これはどういう感覚で教育委員会は使っているのでしょうか。今までどおりの市部、郡部というのとは別の範囲の設定の仕方をして、そこから適正な高校の数や学級数の検討を始める必要があるのではないのでしょうか。特に、今は市町村合併もありますし、従前の概念ではなくて現状にあったエリアの考え方も必要になってきているのではないのでしょうか。

青森県のどの地区も一律で行きましょうというのではなく、地域には地域の特色があり、事情のある地域もあると思います。例えば、地区によっては学校がなくなると通える高校がなくなるといふ中学校も出てくるのではないのでしょうか。そういう所は最低限確保して行くという事を考えなければいけませんし、西北と中南で事情が違う事もありますから、実態を踏まえて中学生の将来の教育や高校の体制を考えて行く必要があると思います。

野呂部会長

今は地区部会ですので、先程から出ていますように地区それぞれの問題がある訳です。渡された資料の中にも、高校の特色や、普通高校、職業高校、総合学科についても地区毎にアンバランスがかなりあり一律ではありません。10月に第3回の専門委員会がありますので、かなり具体的に煮詰まってくるでしょうから、より突っ込んで地区としての意見を討議したいと思います。

D委員がおっしゃったように、もっと広域的に考えた地区の概念を考えると、西北と中南が1つという範囲になってくるかもしれませんし、東青も含んだ範囲になるかもしれません。いずれにしても、地域の実情を把握していないと話が進まないのでもよろしくをお願いします。

時間になりましたので、次の全体会の中で今の議論をおおまかに説明しますし、検討会議でも説明・報告します。ただ、専門委員会については事務局で報告するのですか。

B委員

専門委員会は実際に既に開催されているのに、地区部会は今やってる訳ですよ。本来であれば、この地区部会が優先して開催され、専門委員会に意見を申し上げて行くのが筋ではないでしょうか。ある程度コンプリートされてしまうと、皆さんの意見が果たして反映されるのか疑問を感じます。次は11月と10月に専門委員会がありますが、第3回でどの辺までまとまるのか、それに対しての意見なのか、あらかじめ地区の意見を専門委員会に言うためなのか、その辺の考え方がないのです。

事務局

お示ししてませんが、そもそもコンプリートするという事と言えば、それは検討会議がするものですし、そこに至る過程については各専門委員会で専門的な事項について具体的に検討していただき、B委員のような社会の目から見た考え方、高校の考え方、大学の先生の考え方から専門的に議論していただくものです。それを元に検討会議へ答を返す訳ですが、その過程として地区の意見も十分に汲んで行きましょうという事でこの地区部会を開催しています。ですから、今日のお話しは専門委員会の冒頭で報告する事としています。それによって議論の中身に取り入れましょうとなるかもしれませんが、そうは言ってもそれはちょっと無理なのではとなるかもしれませんが、それぞれの専門委員会で十分に練っていただきますので地区の意見は吸収されるのではと思っています。B委員がおっしゃるように、あらかじめ地区の意見をという事になると地区の気持ちだけが動き、実際に県全体の高校教育がどうあるべきと考える時に、それでは逆にそこにこだわってしまう部分があるのではと組織を立ち上げる段階で考えましたので、あらかじめ大きな会議でもんで、それを元に専門委員会で検討し、それについての地区毎の考えをいただいて、それをまた専門委員会にぶつけるという方向で考えております。運営の仕方に不備もあるかとは思いますが、改善できる所は改善したいと思っておりますので遠慮なくおっしゃっていただきたいと思っております。

野呂部会長

強い意見をもっと出してもよろしいのですね。ただ、次回は12月になりますので時間があります。時間ですのでこれで終わります。今日はお疲れ様でした。